

## 第1回登別市史編さん委員会 協議概要

日 時：平成28年8月24日（水） 午後1時30分～

場 所：市役所第1会議室

出席者 委 員 出席8名、欠席2名

事務局 4名

### 1 委員長及び副委員長の選任について

登別市史編さん委員会条例第4条の規定により委員より立候補を求めたが、立候補する委員がいなかったことから、事務局案を提示し、出席委員全員の了解を得た。

- ・委員長 街道 重昭
- ・副委員長 熊野 正宏

### 2 協議内容

議案書を基に事務局案を説明し、その後委員による協議を行った。

#### (1) 市史編さん事業スケジュールについて

##### ア 事務局案の説明

- ・市制施行50周年を迎える平成32年度に刊行予定であり、刊行時期を先延ばしすることは難しい。
- ・平成28年度は、4回程度開催し、編さん方針、執筆要領、新たな市史の編成などについて調査審議する。
- ・平成29年度からは、資料収集などが一定程度完了し準備できた部分から原稿の執筆を始める。そのため、原稿が出来上がった部分から委員の確認をお願いする。
- ・平成30年度は、前年度とほぼ同様であるが、平成31年度に印刷製本業者に発注するための予算要求を行う関係から、新しい市史のほぼ最終形の編成やページ数などを決定する必要がある。また、この年度は、松浦武四郎の建議を受けての「北海道」との命名から150周年の年にあたり、なんらかの関連事業があるかもしれない。

##### イ 委員からの意見等

意見は無かった。

#### (2) 市史編さん方針（案）について

##### ア 事務局案の説明

- ・新しい市史での記載内容は、昭和45年度から平成27年度までのできごとを中心に記載することとする。ただし、平成28年度あるいは平成29年度の出来事であっても物理的に対応可能な場合において記載内容に盛り込む

ことを検討する。

- ・原稿の執筆にあたっては、近隣市町村、北海道、国際情勢などからの影響を受けて今日の登別があると考え。そのため、北海道や胆振地方の中における「登別市」との視点を大切にしたい。
- ・行政組織としての市の歴史に偏ることなく、市民における生活様式の移り変わりなども記録していきたい。
- ・平易な文章表現としては、高校生程度でも読解できる文章表現としたい。
- ・資料収集にあたっては、日記や写真などの有形資料だけではなく、無形の資料についても配慮し、聞き取り調査などにより収集したい。
- ・市史編さん事業の実施状況などは、市広報紙や市公式ホームページなどを用いて積極的に情報発信し、市民に事業に対して関心を抱いてもらえるよう工夫する。
- ・『市史ふるさと登別』刊行後に行われた調査研究の成果を可能な限り盛り込むとともに、『登別町史』や『市史ふるさと登別』の見直しを行う。
- ・市内外の団体や個人にも資料の提供や聞き取り調査への協力を依頼し、連携しながら市史編さん事業を進めていきたい。
- ・市史の目次などの構成については、後日改めて委員会に諮問したい。事務局としては、記載方式を通史による方式ではなく、分野ごとに記載した町史の方式を採用したいと考えている。

## イ 委員からの意見等

### (ア) 編さん方針

- ・地域史は、市史を手取る人が一番に興味を抱くところであり、市史の中では非常に大切な部分である。
- ・その時々によって市民が関心を抱く視点は異なっている。その中でも民族問題や環境問題についてどのように取り扱うのかを検討する必要がある。

### (イ) 事業の内容

- ・「資料の整理及び保存」とあるが、具体的にどのように行うのか。市民などの協力を仰ぎ、収集した資料の目録作成などを手伝ってもらう方法もあるのではないか。

### (ウ) 組織及び体制

- ・市史編さん委員会において、原稿内容の確認を行うとのことであるが、その修正について最終的な決断を誰がするのか。その部分は明確にした方が良い。
- ・市民や団体と連携して進めていくとのことだが、具体的な方策を検討する必要がある。
- ・専門家に原稿執筆を依頼するときは、論文ではないので、文章表現の修正

などがあり得ることを事前にしっかりと説明しておく必要がある。この部分で執筆者とトラブルになり、刊行が数年遅れている事例もある。

#### (エ) 新市史の構成及び体裁

- ・目次構成は、資料等の収集の中で想定以上に資料が厚薄があり、それによって何回も変わる場合がある。多いところでは7～8回程度変わることもある。そのため、当初のものは仮のものとして捉えた方がよい。

#### (3) 執筆要領（案）について

「原稿の執筆を実際に開始するとさまざまな問題に直面することとなる。そのため、当初はこの内容で初めて、途中で問題が発生したら協議するということがいかがであろうか」との意見が委員からあり、他の委員からは次の一点について確認があったが、おおむね了解の意向であり、それ以上の質疑応答はなかった。

##### <確認事項>

- ・執筆要領（案）には「本文は、縦書きとする」とあるが、読みやすさを考えると横書きが望ましい場合もある。それでも縦書きで通すのか。  
⇒その状況が発生した際に改めて検討することとしたい。

#### (4) その他

##### ア 「市史編さん室だより」の刊行について

委員より事業の進捗状況や調査の過程で判明した事項を報告する「市史編さん室だより」の作成について提案があり、作成について継続協議することとした。

##### <付随意見>

- ・聞き取り調査などで話した内容が「編さん室だより」のような媒体で形になると調査対象者は非常に喜ぶ。
- ・委員会での協議内容などが非公開だと市民の関心を得られないように思う。事業に対する関心を得るためにも進捗状況を公表する必要があるのではないか。

##### イ 市史の題名について

委員より「市史の題名が決まり「(仮称)」は取れるのはいつか」との質問が出されたが、題名については委員各自が案を持ち寄ることとし、次回以降の委員会において検討することとした。